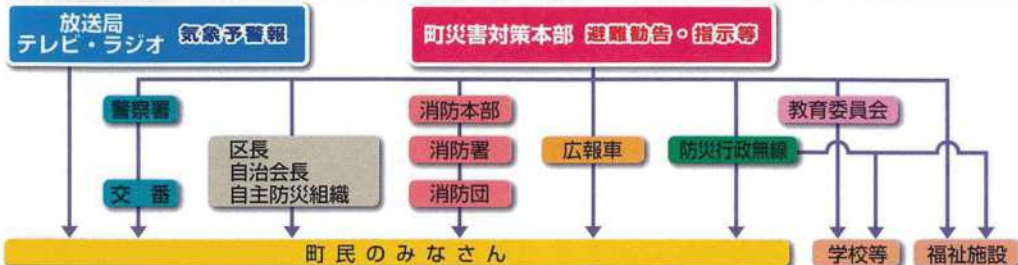


避難情報の伝達

★ 情報を収集して、冷静に判断しましょう

台風や集中豪雨は、ある程度予測できる災害です。情報をしっかり入手し、いざというときの確かな行動がとれるようにしましょう。気象、河川に係わる警報が発令されたときには、各報道機関の流す情報を積極的に収集しましょう。インターネット、ラジオ、テレビなどでリアルタイムに正確な情報を入手することができますので、積極的に活用しましょう。避難指示が発令されたときは、その指示に従い最寄りの避難所に避難してください。



★ 避難情報の種類

高 緊急の 度合	避難指示などの種類	町からの呼び掛けの内容(例)	とるべき行動
	避難指示 (避難命令)	□□川の堤防が△△で決壊する危険があります。直ちに近くの避難所に避難してください。	・近くの避難所に直ちに避難しましょう。
	避難勧告	□□川の堤防が決壊する恐れがありますので、避難をはじめてください。	・家族、近所で助け合って、近くの避難所に、速やかに避難をはじめましょう。 ・自動車による避難はできるだけやめましょう。
	避難準備	大雨・洪水警報が出ました。 □□川が増水しています。 避難の準備をしてください。	・避難の準備を開始し、ラジオやテレビの放送、役場からの広報に注意しましょう。 ・お年寄りや子ども等、避難行動に時間を要する人は、早めに避難しましょう。

★ 水位の見方

河川の水位が上昇し、はん濫の危険性が高まった場合は、河川を管理する国や県から水位や防災に関する情報が発表されます。町は、この情報を目安にして、雨の降り方などを総合的に判断した上で避難に関する情報を発表しますので、町民のみなさんは、ご家族やご近所で協力して安全に避難してください。

■ 河川の水位と洪水予報等

洪水情報の発表基準 (平成22年3月現在)

	利根川水位 栗 橋 基準地点	江戸川水位 西関宿 基準地点	荒川水位 熊 谷 基準地点	大湫古利根川水位 杉 戸 基準地点
はん濫危険水位	8.50m	8.80m	5.60m	8.20m
避難判断水位	8.00m	8.50m	4.80m	7.95m
はん濫注意水位	5.00m	6.10m	3.50m	7.70m
水防団待機水位	2.70m	4.50m	3.00m	7.25m

河川の水位

はん濫危険水位

避難判断水位

はん濫注意水位

水防団待機水位

平常時の水位

堤防

国土交通省・
埼玉県・気象庁が
発表する情報

はん濫危険情報
(洪水警報)

はん濫警戒情報
(洪水警報)

はん濫注意情報
(洪水注意報)

町が発表
する情報

避難指示

避難勧告

避難準備情報

町民のみならずも、インターネット等で確認できる
河川の水位や、国土交通省・埼玉県等が発表する
情報から避難の必要性を判断してください。

発表基準は、見直される場合があります。

目頃の心がけ

近年都市部では、地表面がアスファルトに覆われたため、降った雨水が地下に浸透しません。そのため雨水が、下水道や河川に一気に流れ込み、許容量をオーバーして市街地に洪水を引き起こす、都市型水害が増える傾向にあります。

★ 家族会議を開きましょう。

避難時の家族一人ひとりの役割分担を決めましょう。また、災害時の家族との連絡方法や、離ればなれになったときの最終的に集合する場所を決めておきましょう。

★ 気象や災害情報に注意しましょう。

梅雨の季節や台風シーズンなど水害がおこりやすい時期には、テレビやラジオなどで最新の気象情報・避難情報・災害情報に注意しましょう。

★ 大雨に備えて家の周囲を点検しましょう。

家の「雨戸」や「雨どい」が傷んでいないか確認しましょう。また、家の周囲の「側溝」や「雨水ます」にゴミが詰まると、道路の冠水や浸水の原因になりますので、日頃からの清掃が大切です。

★ 大雨のときは地下室の入室を避けましょう。

地下室にいると外の様子が分りにくく、地上が冠水すると一気に水が流れ込み、水圧でドアが開かなくなる危険があります。浸水の危険がある地下施設では、土のうや止水板・排水ポンプの点検と整備をしましょう。

★ 避難所と避難経路を確認しましょう。

洪水ハザードマップには、自分たちの地区の避難所が示されています。あらかじめ家族が避難所まで安全に通行できるかを実際に確認して、避難経路を複数決めておきましょう。

★ 非常用持ち出し品を準備しましょう。

避難時に持ち出す荷物は必要最小限とし、非常食には、調理の手間がかからず、水もあまり使用しないレトルト食品や缶詰等を選びましょう。懐中電灯や携帯ラジオ、予備の電池も忘れずに用意しましょう。

★ 地域ぐるみで災害時要援護者を支援しましょう。

災害時要援護者の方々が、遠慮なく援助を申し出られるように、地域の皆さんは普段から働きかけましょう。また、要援護者自身とその家族の方々と、地域との交流を保ち、いざというときの援助を依頼しておきましょう。

★ 大雨時に特に注意する場所があります。

大雨が降ると、周囲より低くなっている道路は、水がたまって通行ができなくなります。また、道路や鉄道の下をくぐるアンダーパスも、水がたまって危険となる場所なので日頃から確認しておきましょう。

★ 家庭でできる簡易水防

水深が浅い段階であれば、家庭にある物を使って浸水を防ぐことができます。ごみ袋、ポリタンクやプランターとレジャーシートの組み合わせなどを活用した応急処置が可能です。